インターネット　「岸和田市立浜小学校」　校長室だよりで、バックナンバーがみられます。

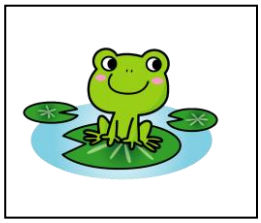
校長室だより

Ｈ２５（２０１３）年度　NO.３

岸和田市立浜小学校　　渡　瀬　　克　美

本年度「第１回学校協議会」を開催しました！

去る６月２０日、本校において、浜小学校「学校協議会」を開催いたしました。組織については昨年度の校長室だよりで詳しく説明させていただきましたので、今回は、委員の方々と、話し合った内容についてご紹介させていただきます。



委員長　　山本　義治　様（元浜地区連合町会長）、
委員に　　梶野　郁子　様（学識経験者）、そして、
委員に　　新屋　久和　様（PTA 会長）の３名と
校長、教頭、片岡首席教諭、吉澤幼稚園主任の計７名によって構成しています。年間の予定では、
１１月に教育活動の進捗状況と提言。
２月に今年度の教育活動の反省と来年度の重点課題と運営改善について協議を行う予定です。

さて、今回は私から学校経営方針について、校長室だより５月号をもとに、以下の４点について説明させていただきました。

【めざすもの】　　―子どもの笑顔があふれる学校―
①・めざす子ども像、クラス像を明確に！「教室はまちがうところだ」！
②・「楽しくて」・「分かる」・「できる」・「分かち伝える」学習で絆を！
③・熱いハートと冷静（クール）な頭脳（生活指導の充実）！
④・地域との連携を密にして安心・安全な学校に（地域とともに）！

授業改善の具体的な方法と授業評価の取り組み方についてご説明いたしました。そのことにより子どもたちに**「確かな学力」と「仲間意識を育てること等が可能」**になると考えています。

生活面では、相変わらず、朝の「おはようございます」のあいさつがなかなかできないことなどもお話ししました。また、地震・津波の避難訓練を地域・市民協議会と連携した取り組みを来年１月に実施の予定であることもお伝えしました。

それでは、委員の方から出ましたご意見をご紹介いたします。

・もともと浜小学校は「浜学校」と呼んでいた。それだけ「地域の学校」という意識は強い。
・教育は、即決できない。積み重ねである。短期的に右往左往するのではなく、長い目で見ていくべきである。
・「学校の先生に任せておけばよい」という信頼を持っているが、学校教育・地域での教育・家庭教育のそれぞれのバランスが必要で、それぞれができることをしなくてはならない。例えば、あいさつができないのは家庭教育の問題である。家庭が大切である。
・浜でも、貧富の差で金があれば塾・私学の小学校という家庭もある。

・社会の常識と家の常識（考え方）はちがう。社会の常識を身に着けさせようと思えば、「集団での生活」が大切なのである。集団生活の中でこそ子どもは育つ。個々の家庭の誤った考え方は常識でも個性でもなく自分の子どもだけがよかったらよいという考え方だ（茶髪等を例に）。わが子だけが良くても学校全体がよくならないと子どもは育たない。
・最近は年齢が上下の関係で遊ぶことが少ない。同年齢でゲーム等をすることが多いようだが、そういう意味では、小学校のたてわり活動は年齢の上下の関係を学ぶ、とてもよい活動だと思う。その中で、目上の人を敬うとか目下の者の世話をするという人間関係が大切になってくる。
・他人の子やから「言わんとこ」というのはよくない。ペニーやスケートボードに乗って迷惑をかけていても注意する人が少ない。
・学校では集団生活の意味・意義と人間関係を教えてほしい。
・浜校区は3割が６５歳以上の高齢者になっている。子どもは地域の宝だ。だから地域の子どもの育成が大切である。
・「だんじりまつり」のよさ･･･「準備」と「片付け」がなかったら成り立たない。「準備」や「片付け」をしてくれる裏方を大切にする。年齢別に集団が分かれている。目上を大切にする良さ。小学生は次の担い手である。悪い面もあるが、それは淘汰すればよい。いいところをもっと広げていく。浜小学校の運動会の取り組み。「準備」から「片付け」までを子どもたちの手で行わせてることはまさに「だんじりまつり」につながっている。有り難いことだ。主役だけでなく裏方の子を褒めてやってほしい。「継続は力なり」で同じことの繰り返しが子どもに力をつける。
・「アカンものはアカン」といってやるべきであり、徹底してほしい。
今は「何をやってもいい」という雰囲気が子どもにある。

・あいさつは普段の生活で身につくものである。
・あいさつができる子は素直である。
・昔は近所の人と会ったら、必ずあいさつ、声かけをした。今はしない。こと祭りになると、自分の町が一番という意識がどの町にもある。競争意識がいい面で発揮できればよい。
・最近の子どもは、おいしいものを出してくれても「おいしい」といわない。食べたことのないものは食べられない。
・小学校は学級担任制で、担任は一日中子どもをみている。中学校は教科担任制で、担任は自分の教科以外は子どもをみない。子どもをしっかりみてやることは大切である。
・「うちの子に手を出すな」という親がいる。茶髪を個性やという。程度の問題はあるが、親の勝手な考え方が子どもに影響している。
・１学年 50 人（2 クラス）がいいように思う。１クラスで、しかも教室いっぱいのクラスでは、子どもの面倒をみるのが大変である。
・土曜日に授業を行うことはどうなのか？簡単にそれが良いとはいえない。
・先生の評価を生徒にさせるのは間違いである。子どもにとって「いい先生」とは、勉強しないで遊んでくれる先生。宿題を出さない先生となる。先生自身の信念でやってくれてよい。でも慢心はいけない。
・学校の先生は「人間教育」をしてくれている。塾の先生は「勉強」のみを教えている。親はその「勉強」しか見ない。
・教育は成果が見えにくい。何年か後に同窓会に呼ばれる先生になってほしい。

【学校から】

学校教育は「学力」と「人間性」の両方をめざしている。行事ではどの学年も「実行委員会形式」といって、子どもたちに企画・立案から運営・後片付けそして、総括までを全て子どもたちにさせようとしている。一年間のうちに全員どこかで主役（中心）になって活躍する場所をつくっている。

土曜授業は大阪市でも年間３回くらいで、学力向上は、「授業改善」が一番大切で、教師がしっかり教材研究と授業研究をして「楽しく」「分かる」「できる」「分かち伝える」学習を仕組むことであるとお伝えしました。

約２時間でしたが、貴重なお話をたくさんしていただきました。学校協議会は大きな後ろ盾であると改めて強く感じました。本当にありがとうございました。